

令和 3 年度(2021 年度)
第 1 回熊本博物館協議会

令和 3 年(2021 年)7 月 30 日(金)午前 10 時
熊本博物館

次 第

1 開会

2 主催者挨拶

3 会長挨拶

4 議事

(1) 令和 2 年度(2020 年度)事業報告について

1. 展示会

2. 行事・イベント

3. プラネタリウム関係

4. 教育・普及活動

5. 資料収集

6. 保存修理事業関係

7. 広報活動

8. 令和 2 年度入館者状況

9. 塚原歴史民俗資料館関係

5 その他

6 閉会

終了後、夏季特別展「 銀河鉄道の夜～KAGAYA 星空の世界展～」

を紹介いたします

議事

(1) 令和 2 年度事業報告について

1. 展示会 P 2～P 6
2. 行事・イベント P 7～P10
3. プラネタリウム関係 P11～P13
4. 教育・普及活動 P14～P20
5. 資料収集 P21
6. 保存修理事業関係 P22
7. 広報活動 P22
8. 令和 2 年度入館者状況 P23
9. 塚原歴史民俗資料館関係 P23～P29

※令和 2 年度新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う臨時休館

4 月 1 日から 5 月 20 日まで（21 日より開館）、プラネタリウム投映休止は 6 月 1 日まで（2 日より再開）

〈熊本博物館関係〉

1. 展示会

(1) 特別展

【事業名】 特別展 KAGAYA 銀河鉄道の夜展

※新型コロナウイルス感染症拡大のため令和 3 年度へ延期

【事業名】 特別展 波奈之丸再建 180 年記念

(仮)「細川家御座船 波奈之丸 ～資料でたどる、お殿様の船旅～」

※新型コロナウイルス感染症拡大のため後年度へ延期

(2) 企画展・共催展

【事業名】 パネル巡回展「潜水調査船がみた深海生物」

【期 間】 5 月 21 日 (木) ～ 6 月 21 日 (日)

【会 場】 特別展示室 3

【主 催】 熊本博物館

【企画・制作】 海洋研究開発機構 (JAMSTEC)

【協 力】 全国科学館連携協議会

【内 容】 有人潜水調査船「しんかい 6500」や無人探査機「ハイパードルフィン」などのカメラがとらえた、神秘的な深海生物の写真を展示。

【成 果】 入場者数 3,850 人 (開催期間中の博物館入場者数)

【備 考】 会場は暗めにして写真を浮き立たせ、深海をイメージした青のライティングで雰囲気演出した。また、過去に海洋研究開発機構から寄贈されて所有していた深海生物の映像資料も展示に合わせてテレビモニターで紹介した。



【事業名】 企画展「旅の巨人」と呼ばれた民俗学者・宮本常一

—熊本で見つけたモノ— (特別編)

【期 間】 7 月 23 日 (木・祝) ～ 8 月 30 日 (日)

【会 場】 特別展示室 2

【内 容】 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、令和元年度会期中に中止した展示会をダイジェストとしてまとめた企画展。民俗学者・宮本常一の半生と熊本での足跡を写真や著書等で紹介した。

【成 果】 入場者数 6,653 人 (開催期間中の博物館入場者数)

【備 考】 短期間の展示となったが、宮本の足跡を紹介する過程で、熊本各地に残る生活用具や農機具類の価値、そして、地域の人々の教育普及への熱い思い等を再発見・再発信することができる展示会となった。



【事業名】企画展 ひらいて、見よう！いろんな巻物

【期 間】7月23日（木・祝）～8月30日（日）

【会 場】特別展示室1

【内 容】資料の大きさのため、通常はごく一部しか展示できない巻物資料を大きく開いて展示。大画面ならではの迫力を味わっていただく企画展とした。

【成 果】入場者数 6,653 人（開催期間中の博物館入場者数）

【備 考】夏季休業期間に合わせて急遽企画・実施したミニ企画展であったが、親子連れなど、夏季休業期間中ならではの多数の観覧者に資料をご覧いただくことができた。通常の展示では見せることができない、横長画面を展示することができ、担当としてもおもしろい試みとなった。今後もミニ企画展などを通して、展示回数の少ない資料などを活用したい。

【事業名】企画展 くまはくうちミュージアムのあゆみ

【期 間】7月23日（木・祝）～8月30日（日）

【会 場】特別展示室3

【内 容】新型コロナウイルス流行による外出自粛期に開始した当館の web コンテンツ発信の取組を紹介し、関連する対象物（魚の耳石や工作物など）を展示した。

【成 果】入場者数 6,653 人（開催期間中の博物館入場者数）

【備 考】自宅や身近な広場（庭先）でも観察や追体験ができそうな「自然観察の方法や科学実験・工作例」を紹介することができ、学校及び家庭での学習支援活動の一助になった。デジタルコンテンツの作成・更新及び内容充実のため、時間確保や事例研究に努めたい。



【事業名】企画展 宇宙の地平線の向こうに～HORIZON を越えて

【期 間】7月23日（木・祝）～8月30日（日）

【会 場】特別展示室3

【内 容】月刊星ナビにて連載された、天文学者・小松英一郎氏によるプラネタリウム番組「HORIZON」の解説記事「宇宙の地平線の向こうに～HORIZON を越えて」をパネルにて展示した。

【成 果】入場者数 6,653 人（開催期間中の博物館入場者数）

【備 考】特別展示室3を半室使用して、プラネタリウム夏番組「HORIZON」の放映に合わせて実施。放映と展示を同時に行うことで、より興味と理解を深めることができた。今後も放映番組とリンクした展示の検討を行う。

【事業名】企画展 ひとのすがた、いのりのかたち ―肖像彫刻の世界―

【期 間】12月5日（土）～1月24日（日）

【会 場】特別展示室1・2

【内 容】重要文化財《木造東陵永瑠禅師倚像》（雲巖禅寺所蔵）の修復を記念し、熊本県内外のさまざまな肖像彫刻を展示。

【成 果】入場者数3,683人（開催期間中の博物館入場者数）

【備 考】肖像彫刻のみをテーマとした県内でも初めての企画展となった。日本博事業の一環として開催し、県内外からの観覧者やインバウンドを想定していたが、会期中に他都市で緊急事態宣言が発令されるなどしたため、予想より大幅に来館者が減少した。しかし、アンケートなどには好評の声が多く、来館者満足度の高い展示であった。

《関連行事》

（講演会）「仏像の文化財修理について」

【日 時】12月19日（土）13時30分～14時30分

【会 場】プラネタリウム室

【講 師】陰山 修 氏（公益財団法人 美術院 国宝修理所 所長）

（ミュージアムトーク）担当学芸員による展示解説

【日 時】12月5日（土）①14時～、②18時～

【場 所】特別展示室1・2



【事業名】企画展 博物館でひな祭り！！

【期 間】2月6日（土）～3月7日（日）

【会 場】特別展示室1・2

【内 容】熊本ならではのひな人形（おきあげ人形）や「天草土人形」をはじめ、「享保ひな」そして、ひな人形のルーツである「這子人形」などを展示した。また、全国で見られる変わりひな人形、「裸びな」や「豆びな」なども展示した。

【成 果】入場者数4,303人（開催期間中の博物館入場者数）

【備 考】家屋や家族の形態変化、地域の伝統や行事に対する人々の思いや意識の変化等を背景に、「ひな祭り」などの年中行事の意義を改めて問う展示会になればと考えた。複数メディアの取材や内容報道もあり、日本文化・地域文化の魅力や多様性の一端を伝えることができた。



【事業名】 企画展 震災をふりかえる ―大地とモノが語る熊本地震―

【期 間】 3月20日（土）～5月30日（日）

【会 場】 特別展示室1・2・3、2階 多目的スペース

【内 容】 平成28年熊本地震発生から5年が経過する時期に合わせ、熊本地震発生後の当館の取組や地震の痕跡が残る資料を紹介し、今後の防災や文化財保存について考える展示とした。

【成 果】 入場者数（令和2年度分のみ）2,023人（開催期間中の博物館入場者数）

※（会期全体）5,325人（開催期間中の博物館入場者数）

【備 考】 熊本地震をテーマとして博物館としての視点で、地質・歴史・美術の分野に関する展示を実施。今後もこのような取り組みを検討していきたい。

なお、令和3年4月27日（火）より、感染症拡大のため臨時休館となったため、当初、5月9日（日）としていた会期末を、一旦5月30日（日）まで延長したものの、結果的に再開館できないまま会期末を迎えた。そのため、入場者数は、3月20日（土）から4月25日（日）までの数値である。



《関連行事》

（講座・教室）「Dr. ナダレンジャーの防災サイエンスショー」

【日 時】 3月28日（日）①10時～10時30分 ②14時～14時30分

【会 場】 プラネタリウム室

【講 師】 防災科学技術研究所

納口恭明 氏（Dr. ナダレンジャー） 罇 優子 氏（ナダレンコ）

【参加者】 105名（①25名、②80名）

【事業名】 共催展 がまだすドーム巡回展

1991『雲仙普賢岳噴火災害』を振り返る IN 熊本博物館

【期 間】 9月9日（水）～10月11日（日）

【会 場】 特別展示室3

【主 催】 雲仙岳災害記念館・熊本博物館

【内 容】 雲仙岳噴火災害30年に向けた巡回事業で、雲仙普賢岳噴火災害の状況、噴火活動、支援活動の過程を、実際に被災した資料や映像とともに紹介した。

【成 果】 入場者数5,098人（開催期間中の博物館入場者数）

【備 考】 当時を語る噴火や災害の写真を通して、火山の脅威や災害への心がまえ、市民をはじめとするボランティア活動、そして復興を果たしていった様子を振り返ることができ、今後の防災を考える展示となった。



【事業名】 共催展 くまもと市2020 遺跡発掘速報展

【期 間】12 月 12 日（土）～2 月 7 日（日）

【会 場】特別展示室 3

【主 催】熊本市文化財課・熊本博物館

【内 容】熊本市内の近年の発掘調査の成果の展示を行った。縄文時代～鎌倉時代の遺跡から出土した貴重な遺物を公開した。また、熊本博物館所蔵資料のうち、再整理を進めている立田山古墳群の出土品を中心に、その意義も含めて展示。

《関連行事》

（展示解説）担当文化財保護主事及び学芸員による展示解説

【日 時】12 月 20 日（日）10 時～12 時

【会 場】特別展示室 3

【成 果】入場者数 3,336 人（開催期間中の博物館入場者数）

【備 考】展示機会の少ない遺物を展示することで、新鮮な展示とすることができた。今後も文化財課と連携して展示の充実に努めたい。また、博物館の収蔵庫に眠っている資料にも光を当てて、多くの市民の方々に調査研究成果を還元したい。

2. 行事・イベント

〈5 月 大型連休の催し〉※感染症拡大防止のための休館措置により中止

【事業名】G・W! は熊博へ

【目 的】学芸班職員の専門性を活かし、GW 期間中に多様なイベントを開催することで博物館活動の多面的な魅力を伝える。

【事業名】「地質の日」企画 web 版：生命の発展と危機

【期 間】6 月 1 日（月）～

【会 場】web コンテンツ

【主 催】地質の日くまもと実行委員会

【内 容】「地質の日くまもと実行委員会」は、毎年 5 月 10 日の「地質の日」に合わせて合同イベントを実施しているが、今年度は新型コロナウイルスの流行のため天草でのイベント開催を中止した。その代替として、加盟館・協会の各ホームページで生命進化をテーマとした web コンテンツを制作・公開した。熊本博物館は熊本大学と共同で「ちきゅうといきもの しんかのれきし」というクイズページを制作し、現在も公開中である。

【成 果】web にて継続にて公開中

【備 考】With コロナの新しい生活様式に沿った取り組みとして、今後もこのような web を介した情報発信について、拡充を図っていきたい。

※当該ページアドレス <https://kumamoto-city-museum.jp/168/web-1/web>

【事業名】海の日企画「ちりめんモンスターを探してみよう！」

【日 時】7 月 23 日（木・祝） ①10:00～、②13:30～、③15:00～ 各回 40 分間

【会 場】実験・工作室

【主 催】熊本博物館

【内 容】「ちりめんじゃこ」の中から様々な生物をより分け、見つかった生物の生態的特性から、なぜその集団とともに採集されたのか考えた。また、ちりめんが採集される地域の海岸の写真も見せ、海の環境について考えるきっかけとした。

【成 果】参加者数 64 人

【備 考】1 回あたりの参加者を 8 グループとしたが、詳細に観察するための実体顕微鏡が 4 台のため、使用者が変わるたびに消毒することを心がけて共用して実施した。複数グループへの指導方法や顕微鏡の台数、実施方法等について検討を行いたい。

【事業名】 夏休み自由研究相談会

【期 間】 夏休み期間中（その前後も含む）

【会 場】 実験・工作室ほか

【主 催】 熊本博物館

【内 容】 従来、夏休み前半と後半にそれぞれ 1 日ずつ「自由研究テーマ相談会」と「自由研究のまとめ・標本名付け会」を実施していたが、令和 2 年度は参加者が密な状態になるのを防ぐため、期間中は随時受け付け、各担当学芸員と調整のうえ個別に対応した。

【成 果】 参加者数 12 人

【備 考】 随時受付にしたことで、例年ならば当館の相談会開催日に（相談したくても何らかの用件があって）来館できない子どもに対しても相談の間口が広がった。希望者ごとに相談日時の調整が必要となったが、じっくりと相談者との話し合い（相談対応）ができた。今後もこれまで同様、指定する相談日以外にも、できる限り柔軟な対応を行っていく。

【事業名】 夏休み化石観察会

【日 時】 8 月 1 日（土） 9 時～17 時

【場 所】 熊本県天草市龍ヶ岳町

【主 催】 熊本博物館

【内 容】 小学生以上の子どもたちや保護者を対象に、大型バスで天草の化石産地に行き、露頭の観察や転石の採集などを行った。また、道中では車窓から見える地形や、その成因となる地質を紹介した。参加者のうち希望者には翌日、博物館内で化石のクリーニング体験を実施した。

【成 果】 参加者数 14 人（うちクリーニング体験参加 6 人）

【備 考】 解説資料については、熊本県博物館ネットワークセンターのご協力をいただき作成を行った。今後も他館等との連携を図っていきたい。

【事業名】 カラフルアンモナイトをつくろう！

【日 時】 8 月 9 日（日） ①10:00～、②13:40～、③15:40～ 各回 20 分間

【会 場】 実験・工作室

【主 催】 熊本博物館

【内 容】 お湯であたためると軟化する樹脂を使い、簡易的なアンモナイトのレプリカづくり体験を行った。

【成 果】 参加者数 58 人

【備 考】 定員に対し、各回 5 倍から 9 倍の抽選倍率となった。人気講座のため、今後の開催方法等について再検討したい。

【事業名】 押花グッズを作ろう！

【日 時】 8 月 10 日（月・祝） ①10:00～、②13:40～、③15:40～ 各回 20 分間

【会 場】 実験・工作室

【主 催】 熊本博物館

【内 容】 身近な植物の押し花を使って缶バッジやキーホルダーなどのオリジナルグッズを作成し、葉や花の形の多様性に目を向けてもらう機会とした。

【成 果】 参加者数 39 人

【備 考】 作成前に使用する葉や花について簡単な解説を行ったことにより、参加者からはどんなところにあるか、なんという名前の植物かなどの質問が多くあがり、植物への興味を深める体験イベントとなった。

【事業名】 顕微鏡で見てみよう

【日 時】 9 月 21 日（月・祝） ①10:00～、②14:00～ 各回 120 分間

【会 場】 実験・工作室

【主 催】 熊本博物館

【内 容】 双眼実体顕微鏡や、正立顕微鏡、偏光顕微鏡を使い、昆虫の鱗粉や複眼、鳥のペリット内容物、各地の砂粒、砂鉄、火山灰、微化石、砂やすり、岩石の薄片標本など、さまざまなものを自由に観察できるイベントを行った。動物担当学芸員による魚の解剖実演も実施した。

【成 果】 参加者数 138 人

【備 考】 比較的手間をかけずに手軽にできるイベントであるが、参加者の反応は良かった。虫メガネは多数準備していたものの、数少ない顕微鏡を使用するための順番待ちが出たため、顕微鏡の台数や実施方法等が今後の課題となる。

【事業名】 サタデーナイトミュージアム

【日 時】 11 月 21 日（土）、28 日（土）、12 月 5 日（土） ※各日 17 時～21 時

【会 場】 熊本博物館

【主 催】 熊本博物館（秋のくまもとお城まつり連携開催）

【内 容】 秋のお城まつり開催期間中、旧細川刑部邸の限定開放と夜間の紅葉ライトアップが実施されることに併せ、博物館も土曜の夜に臨時開館（時間延長）した。

当館への市民の関心を高めるとともに、博物館活動の多面的な魅力を伝えるために実施。

- ア. 屋外展示場等のライトアップ及び竹あかり設置
- イ. ナイトプラネタリウムの実施
- ウ. もみじの葉っぱで絵はがき作り
- エ. 作って遊んでみよう「マジック・リング」
- オ. 県市連携ミュージアムトーク
- カ. ダジックアース

【成果】入場者数 868 人（夜間延長時間の博物館入場者数）

【備考】来館者への便宜供与のため、初の試みとしてキッチンカーを招聘し、南玄関エリアに飲食可のスペースを設定した。来館者にはたいへん好評であり、今後も、収蔵品の保存管理に悪影響が出ないよう、慎重にキッチンカーの利活用を検討していきたい。



【事業名】古生物の「クリスマスツリーかざり」をつくろう！

【日時】12月20日（日）10時～15時

【会場】実験・工作室

【主催】熊本博物館

【内容】クリスマスに合わせ、お湯で軟化する樹脂を使ってアンモナイト型や三葉虫型のクリスマスツリーオーナメントの製作活動を実施。樹脂を冷ます待ち時間にはクリスマスにちなんだ古生物クイズを行った。

【成果】参加者数 38 人

【備考】夏の「カラフルアンモナイトをつくろう！」とほぼ同内容であったが、こちらは開催時期の影響もあり各回少人数での実施となった。今後の開催方法等について検討を行う。

〈2月 くまはく誕生祭の催し〉

※感染症拡大防止のためのイベント自粛措置により、大半のイベントは中止

（2/27「銅鏡のレプリカづくり」、2/28「活性炭電池づくり」は実施）

【事業名】くまはく誕生月間イベント

【目的】1952年2月4日に第2館が開館した「熊本博物館の誕生月」にあたって、2月の土・日・祝日に各種イベントを開催することで当館への市民の関心を高めるとともに、博物館活動の多面的な魅力を伝える。

3. プラネタリウム関係

【事業名】 プラネタリウム投映

【期 間】 6 月 2 日（火）～3 月 31 日（水）（休館日・メンテ日を除く）

【会 場】 プラネタリウム

【主 催】 熊本博物館

【内 容】 星や星座、惑星などについて学ぶ機会を提供するとともに、天文・宇宙に関する情報発信を行う。

ア. 天文・宇宙に関する様々な話題を紹介する一般投映番組とともに、職員の解説による星空案内を行う（投映日の夜空等）。

イ. 幼稚園・保育園・小中学校の団体向けに、各学年の学習内容に応じた投映・解説を行う。

ウ. 幼児・家族向けのファミリーアワー、特別投映、聴覚障がい者向けの「字幕付きプラネタリウム（年内に 1 度開催）」等を実施する。

【成 果】 観覧者数 22,437 人

【備 考】 消毒や換気など新型コロナウイルス感染症対策を実施したうえで投映を実施した。今後も状況に応じた感染症対策を行う。

【事業名】 字幕付きプラネタリウム

【期 日】 8 月 22 日（土） ①9：40～、②12：10～

10 月 17 日（土） ①9：40～、②12：10～

2 月 27 日（土） ①9：45～、②12：15～

【会 場】 プラネタリウム

【主 催】 熊本博物館

【内 容】 プラネタリウムの投映は映像と音声で構成されており、聴覚に障がいのある人にとっては、通常の投映では内容が十分に伝わらない面がある。そこで、聴覚に障がいのある人も一緒にプラネタリウムを楽しむことができるよう、字幕付きプラネタリウムを実施した。字幕については、熊本県聴覚障害者情報提供センターに協力いただいた。

【成 果】 観覧者数 204 人（3 日間合計）

【備 考】 臨時休館のため、通常年 4 回の実施が 3 回となった。今後、学習投映や幼児投映についても、字幕付き投映の実施が出来るよう検討していく。

【事業名】 特別投映 熟睡プラ寝たリウム

【日 時】 11 月 23 日（月・祝）16 時～16 時 50 分

【会 場】 プラネタリウム

【主 催】 熊本博物館

【内 容】 全国一斉「熟睡プラ寝たリウム」の開催に合わせ、気持ちよく眠っていただく

ためのプログラム投映を行った。

【成 果】観覧者数 110 人

【備 考】昨年に引き続き実施。Twitter にて熊本市長がイベントに言及した影響か、観覧券の販売開始から 10 分ほどで全席完売となった。アンケートでは投映時間や年齢制限に関する要望が多いため、今後検討が必要である。

【事業名】天文講演会「私たちがすむ銀河とその中心に潜む巨大ブラックホール」

【日 時】11 月 8 日（日）15 時～16 時 30 分

【会 場】プラネタリウム

【主 催】熊本博物館

【内 容】私たちが住む銀河系・天の川銀河をはじめとする、宇宙に数多く存在する銀河と巨大ブラックホールの関係などについて講演いただいた。

【成 果】観覧者数 94 人

【備 考】新型コロナウイルスの感染者数が、比較的落ち着いていた時期だったこともあるが、会場はほぼ満席となり、市民の天文に関する関心の高さがうかがえた。今後も引き続き、最新の天文学の情報を提供できるよう、定期的に天文講演会を実施していく。

【事業名】CHRONOS II 10 周年記念月間

【期 間】2021 年 3 月

【会 場】プラネタリウム

【主 催】熊本博物館

【内 容】熊本博物館のプラネタリウム「CHRONOS II」が 2021 年 3 月 27 日で設置から 10 周年を迎えることを記念し、特別投映や講演会を実施した。

ア.「きょうだけの★ウラネタ・リウム」

通常の投映ではなかなか見られないプラネタリウムの隠し技・裏ネタを季節の星空案内とともに紹介した。

【日時】 3 月 6 日（土）15 時 40 分～16 時 35 分

【観覧者数】 62 名

イ.「世界の宙巡り～アテンションプリーズ～」

日本、フィンランド、シンガポール、オーストラリアの空を巡りながら、それぞれの土地での星空の見え方や天文現象について紹介した。

【日時】 3 月 13 日（土）15 時 40 分～16 時 35 分

【観覧者数】 34 名

ウ.「55minutes Night Radio」

当日の星空の見え方やベランダでの天体観測方法など、天文に関する情報を歌手・坂本真綾の楽曲と共にラジオ番組風に投映した。

【日時】 3 月 14 日（日）15 時 40 分～16 時 35 分

〔観覧者数〕 38 名

エ. 「星の世界へようこそ」

リラックスプラネタリウムをテーマにゆったりとした音楽を解説の合間に
入れながら、春～夏にかけての星空を中心に紹介した。

〔日時〕 3 月 20 日（土）15 時 40 分～16 時 35 分

〔観覧者数〕 107 名

オ. 「月世界探検～望遠鏡で見る月の世界」

望遠鏡を用いて撮影した月の写真と共に、クレーターや谷などの月面の地
形の紹介など、月の様々なトピックについて紹介した。

〔日時〕 3 月 21 日（日）15 時 40 分～16 時 35 分

〔観覧者数〕 66 名

カ. 天文講演会「プラネタリウムの歴史における熊本の歴代プラネタリウム
について」

ドイツ博物館に設置された世界初の近代的なプラネタリウムの紹介に始
まり、世界と日本のプラネタリウムの歴史、プラネタリウムの仕組み、
そして熊本博物館に設置された 3 台のプラネタリウムの歴史について講
演いただいた。

〔日時〕 3 月 27 日（土）15 時～16 時 30 分

〔観覧者数〕 26 名

【成 果】 観覧者数 332 人(6 回合計)

【備 考】新型コロナウイルスの感染者数が増加傾向の中での開催となり想定より観覧者数
が少なかったものの、解説員 5 人が各々の得意分野を活かして行った特別投映は
アンケートで好評価を得ることができた。55 分間の生解説は準備に時間を要した
が好評であるため、「熟睡プラ寝たリウム」も含め引き続き実施していきたい。

4. 教育・普及活動

(1) 通年講座

【事業名】動物学講座（全 6 回）

【目 的】生物多様性について学び、動物としてのヒトがいかに自然と関わるべきか考える

【内 容】身近な生きものに関する室内講座と観察会

【成 果】参加者数 73 人（年間）

【備 考】感染症拡大防止のため 2 回中止となり、4 回の実施であった。

【事業名】植物学講座（全 6 回）

【目 的】身近な植物に親しみ、興味関心を高め、地域の自然や生物多様性について考える。

【内 容】身近な生きものに関する室内講座と観察会

【成 果】参加者数 29 人（年間）

【備 考】4 月から 12 月までに 6 回の実施を予定していたが、感染症拡大防止のため、日程を変更して 3 回実施した。

【事業名】地質学講座（全 6 回）

【目 的】化石・岩石・鉱物など、熊本博物館の地質資料や大地に関する普及・啓発

【内 容】隔月での通年講座（屋内講座）

① 4. 9 中止 —

② 6. 28 熊本市内の地質 10 名 14 時～15 時 30 分

③ 9. 28 火山噴火の災害 11 名 14 時～15 時 30 分

④ 12. 6 平成 28 年熊本地震 6 名 14 時～15 時 30 分

⑤ 2. 14 中止 —

⑥ 3. 21 「震災をふりかえる」見学 14 名 14 時～15 時 30 分

【成 果】参加者数 41 人（年間）：（申込受講生 21 人）

【備 考】小学 6 年生から一般成人を対象に、隔月で全 6 回の実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4 回の実施となった。

【事業名】民俗学講座（全 10 回）

【目 的】民俗学の歴史（学史）を中心に、民俗学者の柳田國男や宮本常一の実践等について紹介し、民俗学への関心を高める。

【内 容】8 月～12 月までの第 2 火曜日・水曜日、講堂にて座学講座を開催

【成 果】参加者数 127 人

【備 考】感染症拡大防止対策として、講座を中止した期間が長くあった。再開後も講堂の収容定員を 20 人程度に制限したため、講座生を 2 班編成にして同じ内容を 2 日間連続で行うことにした。ウィズ・アフターコロナ時代における運営方法の工夫が必要である。

【事業名】考古学専門講座（全 11 回）

【目 的】熊本市内の遺跡の立地の理由を博物館展示遺物と現地踏査で探る通年講座

【内 容】8 月 27 日～3 月 18 日（対象 一般成人）

※11 回予定のうち 5 回は新型コロナウイルス感染拡大防止対策により中止

【成 果】参加者数 80 人

【備 考】座学であれば参加者は増やすことは可能であるが、現地踏査では 15 人程度が望ましい。今後は考古学の面白さや楽しさを、遺跡の立地や季節を通じて伝えていきたい。

（2）教室その他

【事業名】子ども科学・ものづくり教室

【内 容】小中学生を主な対象として「科学実験や科学工作」などの「直接体験」の場を設け、身の回りの自然事象に対する興味・関心を高め、楽しく活動しながら科学の原理や技術（歴史や文化に関する内容も一部含む）について学ぶ機会を提供するもの。色と光、振動と回転、空気と真空、電磁気、力学などをテーマとした内容のほか、葉脈標本作り、アンモナイトのレプリカ作り、銅鏡のレプリカ作りなど、植物、地質、考古、保存科学分野に関する内容も取り入れ、内容の充実を図った。また、NP0 団体（日本アマチュア無線連盟熊本県支部）や崇城大学との共催イベントも行った（熊本高専とのイベントは「中止」）。

※感染症拡大防止措置に係る事業規模縮小等のため、自由参加型の教室は行わず全て事前申込・定員制の教室とした。

【定員制教室の例】コイルモーター作り、紙パックカメラ作り 他

【期 間】6 月～3 月（1 月～2 月中旬までの教室は「中止」）

【成 果】参加者数 693 人

【備 考】年度中の開催数は 23 回に留まった（全年度は 28 回：2,067 人。内、約 6 割が子ども）。ここ数年、参加者数は増加傾向にあったが、コロナ禍が実績に大きく影響してしまった。年齢差・個人差に応じた実技面での指導や運営スタッフの補充など、人材面での協力体制構築を図りながら、今後も大学や高専、民間団体とも連携した事業展開により、教室の魅力を高めていきたい。

【事業名】発掘勉強会

【内 容】博物館敷地内屋外石棺展示場の石畳を「発掘」することにより、本物の遺跡の発掘調査を疑似体験する。

【期 日】11 月 4 日（水）、11 月 17 日（火）

【成 果】参加者数 11 人

【備 考】今回の実施を踏まえ、参加人数は指導を行いながら発掘調査の体験を行うため、10 人程度が望ましいと思われ、次期開催時の定員設定の参考とする。

【事業名】考古学資料調査

【内 容】宇土市神ノ木山古墳、氷川町野津古墳群出土遺物の検討

【期 日】2 月 18 日（木）、3 月 4 日（木）

【成 果】参加者数 5 人

【備 考】立田山古墳群出土資料と比較検討し、類似資料を多く確認した。館報掲載や今後の展示に生かしていきたい。

【事業名】聴覚障害者のための生活文化講座

【内 容】熊本博物館常設展示（歴史分野）の見どころについて、聴覚障害者のための解説動画を制作。予め博物館で録画したものを当日 Zoom 配信した。

【期 日】2 月 25 日（木）

【成 果】参加者数 20 人

【備 考】熊本県聴覚障害者情報提供センターからの依頼を受けて、歴史分野で動画を制作。普段なかなか当館を利用する機会が少ない聴覚障害者の方に向けて、歴史分野展示の見どころなどを解説した。動画を学芸員数名で制作する苦労はあったが、依頼者の計らいにより制作した動画は当館動画コンテンツとして再利用することができた。なお、当日配信された動画は、熊本県聴覚障害者情報提供センターの配信番組としても公開されることとなった。今後も障害がある方への情報発信の実施について検討を行う。

（3）学校教育支援事業

【事業名】ゲストティーチャー派遣授業（お出かけ事業）

【目 的】博物館が有する価値ある収蔵資料及び学芸員・研究員の専門知識や技能を学校の授業に活用し、子どもたちの学習意欲や問題解決能力の向上に寄与する。

【期 間】年間を通して要請に応じて実施。

【内 容】学芸員・研究員を小学校「社会科・理科」の授業を中心にゲストティーチャーとして派遣する（総合的な学習の時間や、その他の教科等での派遣も一部あり）。所管する資料や専門知識・技能を駆使し、学習内容の充実を図るとともに教育効果を高める（可能な範囲で派遣中）。

【成 果】延べ 15 校（山東小、弓削小、山ノ内小、砂取小、湖東中など）で、25 時間分の授業対応をした（前年度は延べ 9 校：22 時間）。その内、6 時間分は Zoom を使った遠隔授業を試行的に行った。

【備 考】派遣授業で用いるプログラム集（冊子：第 3 版）を改訂し、全小中学校への配布を行った（HP でも閲覧可）。他業務との兼ね合いで希望に添えない場面もあるが、できるだけ早めにご相談いただくことで調整に努めたい。また、Zoom 等の効果的な活用場面を探りつつ遠隔授業・遠隔解説にも取り組んでいく。

【事業名】 館内学習支援活動（お迎え事業）

【目 的】「館内学習プログラム集」を活用し、学校団体利用時におけるオリエンテーションや座学の時間帯を使って、館内展示資料（数点）の価値や魅力を紹介することで、館内見学（学習）に関する興味・関心を高める。

【期 間】 通年

【内 容】新設された講堂及び実験・工作室を活用し、担当の学芸員が所管する展示物の魅力や価値を補足資料等も交えながら紹介することにより、学習後の館内見学に対する期待感を高めるとともに、見学の視点を与える。学校団体予約時に館内学習プログラム集の中から 1～2 題材（1 題材：15～20 分間程度）を選んでもらい、要請に応じて実施する。延べ 26 校に対して延べ 33 プログラムを実施し、展示資料に関する見方や考え方的一端を伝えた（前年度は、全 16 校・延べ 24 プログラム）。

【備 考】館内学習については、夏の教職員研修講座、校長・園長会等で事業内容について繰り返し触れながら広報・周知に努めている。今後は、プログラム集の改訂作業（一部は新規に作成）や教材・教具の工夫等によって、より魅力的な館内学習を提供・展開できるよう取り組んでいく。

【事業名】 熊本博物館・スクールシャトルバス事業（お迎え事業）

【目 的】小学校で社会科・理科学習がスタートする中学年（3 年生または 4 年生）の子どもたちを当館に招待し、未知・既知の学習資料の価値や魅力に触れる機会を提供することで、新たな学びへの興味・関心を高める。年度期間中において、事業該当校（12 校）の中の希望校を対象として実施中。上記の目的を達成し、併せて学校教育支援事業（博学連携）強化の一助とするため、地理的に遠方の学校と当館を結ぶスクールシャトルバスを借り上げて運行。館内スケジュールの基本的な流れはプラネタリウム学習投映、館内学習プログラム体験（1～2 本）、館内展示物見学を盛り込んだ。館内滞在時間は前年度の 2 時間半から最大 4 時間へと拡大した。

【成 果】感染症の拡大によって事業対象校 12 校の内、参加校は 9 校となった（3 校は辞退）。参加校の引率者（28 人）と参加児童（439 人）に対してアンケート調査を行った結果、プラネタリウム視聴・館内学習・展示物見学等の全てにおいて、全年度以上の高評価を得た。

【備 考】感染症拡大に伴う休校措置が 2 か月間に及んだため、事業時数確保の面からも参加校が減少した。また、大半の学校は前年度同様、2 時間半程度で帰校することになった。次年度も、昼食時間を含めた滞在時間：4 時間程度を確保し、館内で充実した活動ができるよう支援を行う。

(4) 講師派遣

【事業名】 学校 PTA 活動・社会教育施設開催講座等の活動支援

【内 容】 学校 PTA 活動や公民館等の社会教育施設で開催される行事や講座での講師を務め、内容の充実及び活動目的の達成のための支援を行う。

- ・ 北部家庭教育学級「科学工作教室」(8 月 6 日 : 30 人)
- ・ わくわくえづっ子塾「昆虫観察会」(9 月 5 日 : 20 人)
- ・ 熊本県地名研究会講座「アマビエよもやま話」(11 月 8 日 : 10 人)
- ・ 白川わくわくランドイベント「寺子屋」(12 月 6 日 : 22 人)
- ・ 聴覚障害者のための生活文化講座 (2 月 25 日 : 6 人)
- ・ その他

【期 間】 8 月～2 月

【成 果】 参加者総数 190 人

【備 考】 館外にて、学芸班職員の専門分野に関する講座・教室等の支援を行った。感染症防止対策に伴うイベント自粛等により、要請回数・参加者数はかなり減ってしまったが、今後も博学連携・博社連携活動への協力を継続していく。

(5) 教職員研修

【事業名】 小学校理科実験事故防止講習会 (市教委指導課主催) ※「中止」

【目 的】 理科実験中に起こりうる実験事故の防止対策につながる内容の講習会を行い、安全かつ適切な実験方法等について指導・助言を行うと共に、実技指導により教師自身の技能向上に寄与する。

【事業名】 教職員向け研修講座～館内学習プログラム解説編～

【目 的】 学校教育支援事業 (お迎え事業) で活用する「館内学習プログラム集 (全 50 題材)」について、その冊子の中で紹介している館内展示物等の価値や魅力を各担当学芸員が教師向けに直接伝える。

【期日・内容】 8 月 24 日の午前中に人文系プログラム、午後に自然系プログラムを紹介した。講堂及び実験・工作室での座学や教材・教具を使った実習、展示室に移動しての解説・補足説明を行ったほか、質問にも応じた。教職員のほかに社会教育主事の参加もあった。

【成 果】 午前・午後合わせて 11 人の参加者があった。学習プログラム及び活用資料・展示資料の魅力や価値 (の一端) を伝えることで、博物館を身近に感じてもらえたように思う。学校だけでなく、公民館の家庭教育学級等でも館内学習プログラムを活用してみたいという感想も聞かれた。

【備 考】 コロナ禍で、夏季休業中の対面での教職員研修等は大幅に縮減された。本講座も前年度は 2 日間にわたって研修を行ったが、今回は 1 日のみの開催とした。より多くの教職員 (や社会教育主事) に参加してもらえるよう、新規プログラムの開発や内容の改善、早めの周知等に努める。

【事業名】**教職員対象：社会体験研修** ※令和2年度は受け入れ「無し」

【目的】教職員研修の一環として行われている異業種体験研修に協力する。

【内容】学芸班職員の通常業務、総務企画班の通常業務に関して、来館者対応、イベントの準備、資料整理、資料作成等、体験可能な範囲で異業種体験を行い、自分自身の教職業務について見つめ直す機会を提供する。

【事業名】**熊本県・市中学校教育研究会理科部会 合同夏季研修会**

【目的】当館学芸員・研究員の協力のもと、地質分野を中心に実技研修等を開催することで、中学校理科担当教職員の資質及び技能向上を図る。

【期 日】8月3日（月）

【内容】着色した寒天を用いた「地層モデル」の製作を中心とした実技研修会と、中学生向けのプラネタリウム番組視聴、館内地質展示物の解説等を行った。

【成果】参加者数 22人（県・市中学校理科教職員）

【備考】半日の研修であったが、地質及び天文に関する充実した研修の場を提供することができた。今後も要請に応じて積極的に協力を行う。

（6）博物館実習等

【事業名】**博物館実習受入れ**

【目的】学芸員資格取得を目指す大学生を対象に、6日間の館園実習を実施した。

【内容】実習期間 8月15日（土）～8月20日（木）

1日目 オリエンテーション、館内見学、管理事務・設備概要

2日目 博学連携、イベント準備、来館者対応、プラネタリウム業務体験

3日目～5日目

【自然系】動物・植物・地質・天文・保存科学実習

【人文系】考古・歴史・美術工芸・民俗・保存科学・撮影・展示実習

6日目 展示課題発表「感染症流行に伴う、休館中の地域博物館の活動について」

受け入れ大学 東京首都大学、八須学園大学、広島大学、山口大学、琉球大学 各1名、東京農業大学2名、崇城大学2名、熊本大学10名 計：19名

【備考】新型コロナウイルス感染症の国内感染が拡大して間もない前年度2月に公募を開始したため、当初は感染対策を盛り込んでいなかったが、受付後から大学や実習生と綿密に連絡調整を行い、様々な感染対策を講じた上で実施した。今後も円滑な実習となるよう、コロナ禍における実習内容について検討を行う。

(7) ホームページコンテンツ

【事業名】 ホームページコンテンツ「博物館流 自然観察・科学工作のススメ」

【内 容】 人混みを避けながら家庭で手軽に実施できる自然観察・科学工作の方法などをホームページで発信し、感染症拡大防止のためのイベント自粛・休館中・再開後を含め、様々な場面で自宅や学校に居ながらの学習支援を行うもの。

(内容の例)

- ・【“ちりめんじゃこ”で海の中を覗いてみよう】
- ・【魚の耳石を取り出してみよう】
- ・【頭骨ふくふくパズル】
- ・【春の草花でビンゴゲーム】
- ・【アーケオプテリクスふくげん むりえレリーフ】
- ・【子ども科学教室シリーズ】 その他

【期 間】 通年・随時更新

【備 考】 令和 2 年度の夏頃までは、週に 1 本程度のペースで新規コンテンツを追加することができていたが、館の再開後は通常業務に加え、感染症対策関連業務もありなかなか更新が難しくなっている。しかしながら、この取組は今後も必要かつ有効な生涯学習支援、学校教育支援となり得るため、紹介する内容を再検討したり担当業務のスクラップ&ビルドを進めたりしながら、引き続き情報発信ができるよう工夫を行う。

5. 資料収集

(1) 収蔵資料

資料点数 143,319 点 (2021.3.31 現在)

	H27	H28	H29	H30	R1	R2
地質	20,097	20,097	20,112	20,172	20,182	20,233
動物	58,161	58,161	58,321	58,930	60,792	63,232
植物	16,721	16,721	16,742	16,766	16,865	16,897
理工	137	137	137	135	135	137
考古	10,217	10,217	10,217	10,224	10,224	10,224
歴史美工	15,049	15,049	15,175	18,138	18,469	18,773
民俗	13,135	13,135	13,319	13,558	13,561	13,823
総計	133,517	133,517	134,023	137,923	140,228	143,319

※上記は登録済みの点数であり、未整理・未登録の資料は含まない。

※各年度末における累計点数

(2) 寄贈

日付	資料名	点数
6. 1	アンモナイト	1
7. 26	大身槍（銘：九州肥後同田貫…以下不明）	1
8. 27	和傘関連資料（和傘・骨・紙）	8
8. 29	満州引揚資料	20
9. 22	戦争関連資料	7
9. 26	戦争関連資料	11
9. 27	洋服箱	1
10. 15	陽陰（飾り馬の飾り）	1
10. 21	九曜紋付大筒	1
10. 26	池辺吉十郎詩書	1
11. 4	キノコ標本	675
11. 20	カメ化石	1
11. 30	和傘関連資料（メダル・賞状・広告付地図）	73
2. 22	さく葉標本	一式
3. 5	押絵	76

6. 保存修理事業関係

【事業名】熊本博物館収蔵資料刀剣研磨業務委託

【目 的】研磨を行うことによって、展示品として鑑賞に堪えうるレベルにまで復元するとともに、新規で白鞘を制作し、今後も安全で良好な状態で保存・管理できるようにする。

【内 容】薙刀（銘：備州口口久光）

【期 間】令和 2 年（2020 年）4 月 1 日～令和 3 年（2021 年）3 月 31 日

【成 果】錆が著しい資料であったが、本修復事業により展示が可能となり、適切な状態で保管することが可能となった。

※令和 2 年度（歴史分野）

古文書その他の修復を予定していたが、修復用の予算が新型コロナ対応予算へ充当されることとなり、修復は次年度以降へ見送りとした。

7. 広報活動

【事業名】SNS 等を活用した広報及び学習情報の発信

【期 間】通年

【場 所】web コンテンツ

【内 容】昨今の感染症の流行により、政府は国民に対し「新しい生活様式」を求めている。従来、博物館運営においても大規模な集客イベントの実施が難しくなっている。従来のような集客が見込めない状況において、来館者数だけに頼らない新たな博物館の存在価値を創出するため、幅広い世代のコミュニケーションツールとして利用されている SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）等を活用し、積極的な広報や学習情報を発信する。

【成 果】公式 YouTube チャンネル登録者数 476 人
 公式 Twitter フォロワー数 2,391 人
 公式 Instagram フォロワー数 250 人
 公式 facebook フォロワー数 202 人
 熊本市塚原歴史民俗資料館 公式 facebook フォロワー数 218 人
 ※令和 3 年 7 月 14 日時点

【備 考】今後も引き続き、館公式の「ホームページ」をはじめ、「Twitter」、「Instagram」、「Facebook」、「YouTube」「LINE」等をフルに活用し、様々な「世代」「地域」「嗜好」などに合わせた発信を行う。

Youtube 収蔵品や展示品、企画展、講座・教室の情報等（動画）

Twitter リアルタイム性と情報拡散力の高い情報等（文字、画像）

Facebook オールラウンドな情報等（文字、画像）

Instagram ビジュアル性の高い画像等（文字、画像）

8. 令和 2 年度入館者状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
入場者 合計		803	3,866	4,294	5,117	3,660	4,935	6,380	2,785	1,441	3,464	4,303	41,048
一般		444	1,998	2,067	2,647	1,966	2,074	2,981	1,624	837	2,155	2,349	21,142
高校生・大学生		20	171	324	167	235	168	244	275	139	220	366	2,329
小・中学生		194	940	860	1,721	1,010	2,227	2,568	545	302	543	1,020	11,930
就学前児・乳幼児		145	757	1,043	582	449	466	587	341	163	546	568	5,647
プラネタリウム 合計			1,756	2,866	3,414	2,128	2,624	3,181	1,435	873	2,153	2,007	22,437
一般			850	1,248	1,615	1,100	1,179	1,359	721	430	1,196	935	10,633
高校生・大学生			60	146	129	144	119	167	210	98	136	260	1,469
中学生以下			846	1,472	1,670	884	1,326	1,655	504	345	821	812	10,335

※休館日における学習放映を含む

※新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う臨時休館は 5 月 20 日まで（21 日より開館）、
プラネタリウム放映休止は 6 月 1 日まで（2 日より再開）

9. 塚原歴史民俗資料館関係

（1）企画展

【事業名】 令和 2 年度「A5 ランクの資料展～せっかく塚原に来たつならこるだけは見ていきなっせ～」

【期 間】 12 月 22 日（火）～2 月 28 日（日） ※開催日数 66 日

【会 場】 塚原歴史民俗資料館 特別展示室

【主 催】 塚原歴史民俗資料館

【内 容】 今年度実施の企画展は、当館において展示・収蔵している資料の内学術上特に価値の高いものをピックアップして集約展示した。主な展示物は、国指定の重要文化財「台付舟形土器」県指定文化財の「馬頭観音立像」の他県内最古の石器である「沈目遺跡の旧石器」県内で唯一出土の王莽銭「大泉五十」などいずれも他館では見られない逸品を展示した。

【成 果】 入場者数 243 人

【備 考】 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、入場者が少なかったことが悔やまれる。また、関連の講演会「先人が残した宝物～」南区城南町の文化財～」及びワークショップ「土器づくり～重要文化財第付舟形土器に挑戦～」を中止せざるを得なかった。今回の企画展内容について動画にて配信を行ったが、今後も積極的な情報発信に努める。

(2) 教室・講座

本年度の教室講座は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため 4 月から 6 月、1 月以降の期間は実施できなかった

【事業名】古文書講座

【期 間】通年（4 月～3 月）

【会 場】塚原歴史民俗資料館研修室

【内 容】受講年齢制限なしの通年の講座。

例年月 1 回、第 3 日曜日に開催しているが、本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、9 月からの開始となり、受講も人数制限のため 2 班に分けて実施した。両班とも 2 回の受講で終了した。昨年度に引き続き、熊本史学会会員の花岡興史氏に「熊本の史料に見る幕藩関係」のテーマで講義をしていただいた。

【成 果】受講者数 57 人

【備 考】新規受講生も少数あるが、複数年受講が多いことから、今後新規受講生を増やす工夫が必要である。

4. 19	開講式 記念講演「熊本の考古学史」	中止
5. 17	熊本の史料に見る幕藩関係	中止
6. 21	熊本の史料に見る幕藩関係	中止
7. 19	熊本の史料に見る幕藩関係	中止
8. 16	熊本の史料に見る幕藩関係	中止
9. 20	熊本の史料に見る幕藩関係①	14 人
10. 18	熊本の史料に見る幕藩関係①	14 人
11. 15	熊本の史料に見る幕藩関係②	15 人
12. 20	熊本の史料に見る幕藩関係②	14 人
1. 17	熊本の史料に見る幕藩関係③	中止
2. 21	熊本の史料に見る幕藩関係③	中止

【事業名】考古学講座

【期 間】通年（4 月～3 月）

【会 場】塚原歴史民俗資料館

【内 容】年齢制限なしの通年の講座。当館学芸員及び熊本市文化財課の職員が講師となり開催した。原始から古代を中心に各回テーマを設定して講義を行った。今年度は、古文書講座同様新型コロナウイルス感染拡大のため 10 月からの開催となった。実施回数は 4 回であった。

4. 19	開講式	
	記念講演「熊本の考古学史」	中止
5. 10	地下に歴史を掘る～考古学の基礎知識～	中止

6.7	平城京拾い読み～平城貴族と庶民の暮らし～	中止
7.5	西海道と肥後の国	中止
8.2	熊本の古代～二本木遺跡群とは～	中止
9.6	始原期の人類を求めて	中止
10.4	始原期の人類を求めて	13 人
11.1	熊本の古代～遺跡の調査から見えるもの～	11 人
12.6	司馬遼太郎の歴史観から戦前を見る	13 人
1.10	清正の土木	中止
2.7	清正の土木	中止

【成 果】 受講者数 37 人

【備 考】 古文書講座同様複数年受講者が多く、新規の受講者を増やす工夫が必要である。

【事業名】 土器づくり教室(春) ※新型コロナウイルス感染症対策のため中止

【期 日】 4 月 19 日 (日)

【会 場】 塚原歴史民俗資料館研修室

【内 容】 年齢制限なしの教室。縄文・弥生土器の製作技法である輪積法により制作した土器を雲南式土窯により焼成。

【事業名】 榎実鉄砲を作って遊ぼう ※新型コロナウイルス感染症対策のため中止

【期 日】 5 月 24 日 (日)

【会 場】 塚原歴史民俗資料館研修室

【内 容】 昔遊びの体験教室

【事業名】 古代文様のメダルを作ろう ※新型コロナウイルス感染症対策のため中止

【会 場】 塚原歴史民俗資料館研修室

【期 日】 6 月 28 日 (日)

【内 容】 小学生対象。粘土に古代の瓦や土器の文様を写し、素焼きにしたものに採色してメダルを作る。

【事業名】 藍染体験教室～藍の色は愛の色～

【期 日】 7 月 26 日 (日)、8 月 8 日 (土)、8 月 10 日 (月・祝)

【会 場】 塚原歴史民俗資料館研修室【内 容】 今年度初めて実施した講座である。20 名の募集に対し 100 名近くの応募があり、急遽実施日を増やして実施することとした。綿のハンカチを藍タデの生葉を使って染め上げた。

【成 果】 参加者数 54 人

【備 考】 珍しさもあって多くの応募があった。次年度以降も実施をしたい。また本染めについても検討したい。



【事業名】 夏だ!!わくわく古代体験教室

【期 日】 8 月 21 日（金）

【会 場】 塚原歴史民俗資料館研修室

【内 容】 「勾玉作りと火起こし体験」

蠟石を使った勾玉づくりと舞錐を使った火起こしを行った。

【成 果】 参加者数 11 人

【事業名】 埴輪づくりと火起こし体験

【期 日】 8 月 23 日（日）、29 日（土）

【会 場】 塚原歴史民俗資料館研修室

【内 容】 オリジナルの埴輪づくりと舞錐を使った火起こし体験を行った。

【成 果】 参加者数 26 人

【備 考】 歴史や考古学の楽しさを伝えるために、小学生を対象に夏休みに 2 日間の開催だったが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、参加人数が少なかったことが悔やまれる。



【事業名】 古代織体験教室

【期 日】 9 月 27 日（日）

【会 場】 塚原歴史民俗資料館研修室

【内 容】 原始機を使った織物体験

【成 果】 参加者数 7 人

【備 考】 年齢制限なしの教室で、小学生から高齢者まで幅広い世代からの参加があった。広報の工夫により、もっと多くの参加者が望めるものと思われる。

【事業名】 学芸員と歩く野外博物館

【期 日】 10 月 25 日（日）

【会 場】 塚原歴史民俗資料館及びその周辺

【内 容】 年齢制限なしの教室。春と秋に実施。塚原歴史民俗資料館の館内見学と館周辺に自生する野草や遺跡の観察を行った。

【成 果】 参加者数 11 人

【備 考】 2 月から 5 月まで休館していたため、春は実施できなかった。秋のみの実施だったが、参加者は小学生から高齢者までと幅広く、年齢を問わず参加できる講座として継続していきたい。



【事業名】 土器づくり教室

【期 日】 11 月 3 日（火・祝）、22 日（日）

【会 場】 塚原歴史民俗資料館

【内 容】 塚原歴史民俗資料館に収蔵している土器をモデルに、各自が思い思いの土器を作成。焼成は雲南式の土器焼成法で行った。

【成 果】 参加者数 34 人

【備 考】 例年は春と秋の 2 回実施しているが、秋のみの開催となった。例年募集人員を上回る応募があり、筆内では収容できないことから屋外で実施した。焼成法については、県内唯一、当館が行っている焼成法であり、今後も継続していきたい。

【事業名】 押し花づくり教室

【期 日】 11 月 29 日（日）

【会 場】 塚原歴史民俗資料館研修室

【内 容】 年齢制限なしの教室。野草や紅葉した落ち葉の押し花を使って缶バッジや絵葉書を製作した。

【成 果】 参加者数 18 人

【備 考】 オリジナルの缶バッジや絵葉書を作ることができることから、参加者にも好評であった。今後も継続していく。

【事業名】 編布コースターづくり教室

【期 日】 12 月 13 日（日）

【会 場】 塚原歴史民俗資料館研修室

【内 容】 年齢制限なしの教室。縄文時代からある「編布」の編み方でコースターを作る体験教室。

【成 果】 参加者数 7 人

【備 考】 小学校低学年からの参加があったが、低学年には編み方を理解するまで時間がかかることから、次年度からは年齢制限を設けることを検討したい。



【事業名】 オリジナル埴輪づくり教室 ※新型コロナウイルス感染症対策のため中止

【期 日】 1 月 24 日（日）

【会 場】 塚原歴史民俗資料館研修室

【内 容】 古墳時代の埴輪づくりの制作方法を使いオリジナルの埴輪を製作する体験教室。

(3) 館外活動

ア 清水小学校 6 年生

体験教室として、勾玉づくりと舞錐による火起こしを指導した。ソーシャルディスタンスを確保するため、屋外での実施となった。

実施日 11 月 6 日 (金)

参加者数 90 人

(4) その他の活動

ア フレンドリー

体験教室として、勾玉づくり・火起こしを指導。

実施日 10 月 23 日 (金)

参加者数 17 人

イ 城南児童館

体験教室として、勾玉づくりを指導

実施日 10 月 11 日 (日)

参加者 10 人

(5) 博物館実習生の受け入れ

8 月 18 日 (火) ~ 23 日 (日) までの 6 日間、福岡大学から 1 名を受け入れ、博物館活動についての指導を行った。詳細は以下のとおり。

8.18 受入式

講義「熊本市塚原歴史民俗資料館について」及び館内実見
企画展示案作成 (基本構想)

8.19 民俗資料整理 (写真・パソコン入力)

企画展示案作成 (基本設計)

8.20 考古資料整理 (資料確認作業)

企画展示案作成 (実施設計)

8.21 歴史資料整理 (写真・パソコン入力)

企画展示案作成 (実施設計)

8.22 歴史資料の整理 (パソコン入力)

企画展示案作成 (展示レイアウト作り)

8.23 体験教室指導 (オリジナル埴輪づくり)

展示案プレゼンテーション

実習報告書作成



(6) 収集保存

ア 資料の利用

(ア) 資料特別利用

6.19 台付舟形土器 1 点
(宮崎県埋蔵文化財センター)

10.25 石棒 (御領貝塚出土) 1 点
石刀 (大明神遺跡) 1 点
(鹿児島県埋蔵文化財調査センター)



(イ) 資料の貸出

11.20~2.05 陳内廃寺出土 複弁・単弁連華文
軒丸瓦 3 点 (宇城市教育委員会)



イ 資料の燻蒸

業者委託により収蔵室のガス燻蒸を実施。使用薬剤はミラケン GX

実施日 8 月 10 日 (月・祝) ~ 11 日 (火)

(7) 入館者状況

令和 2 年度 熊本市塚原歴史民俗資料館入館者数

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
一般	大人	臨時 休館	21	40	51	127	46	55	124	40	35	66	53	658
	小人		0	0	0	9	3	1	7	2	0	2	5	29
団体	大人		0	0	0	0	0	47	0	0	0	34	0	81
	小人		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計			21	40	51	136	49	103	131	42	35	102	58	768